

議長 江藤 芳光
副議長 野鶴 修
伊藤 善康
佐藤 湛陽
中野 義信
熊懷 和明
岩淵 和明
竹永 茂美
佐藤 裕宣
組坂 公明
樋口 隆三
高松 幸茂
高木 亜希子
権藤 英樹

うきは市議会

謹賀新年



次世代に継ぐ、生き残りをかけた「うきは創生」

うきは市議会 議長 江藤 芳光

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、うきは市議会を代表して、市民の皆様にご挨拶を申し上げます。

市民の皆様におかれましては、新春をお健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。

また、日頃から市議会に対する温かいご理解と格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

いまだに止まぬコロナ禍。マスクで顔を覆う窮屈な日々の生活を刻みながら、また新たな年を迎えました。

平成26年から政府が地方活性化策として取り組んできた東京一極集中是正政策「地方創生」は成果もむなしく、この政策も未曾有のコロナ禍で薄れ、都市と地方の格差は広がる一方にあります。

この3年余、社会・経済は機能不全に陥り、自然豊かな我がまちも隣人関係さえ遠のき、代々受け継がれてきた賑わいの伝統文化も、少子・高齢化とも相まって個々個人の生活が当然のように、特に若者の煩わしさからの逃避は、「時代も思考も変わった」というほかありません。まして、うきは市の人口は減少の一途を辿り、平成17年の合併当時3万4千人から6千人減少し、昨年4月に旧浮羽町は過疎地域に指定されるという衰退の途に直面しています。



一方で昨年2月、ロシアによるウクライナ侵攻の勃発は、世界の遠い国の出来事のはずが、エネルギーと食料を国外に頼る我が国の脆弱が、私たち末端の生活に直結する現実に、目覚めさせられました。

ところが、コロナ禍に重なるこのような事態においても、我がうきは市の魅力は底強く機動しています。それは「道の駅」と「JA耳納の里」の盛況です。うきは市は「フルーツ王国」として、驚くほどにその地名を轟かせています。筑後川と耳納連山が織りなす自然の造形美と肥沃な農地が育む「農業」、そして全域の大半を占める山林こそ、うきは創生の源泉だと確信します。

世界は今、エスディージーズ（SDGs）、そして気候変動を抑制する脱炭素（カーボンニュートラル）への取り組みが台頭しています。そして急速に進展する「デジタル化」とともに若者が目指す近未来が、このまちの発信源として期待されています。

食料の海外依存（自給率38%）を脱却する食料安保、みどりの食料システム戦略等々、政府は農業の憲法である「食料・農業・農村基本法」の構造改革に着手しています。このような動きを踏まえ、うきは市政と我々議会が取り組む共通の命題は、「次世代に継ぐ、生き残りをかけた・うきは創生」にあると考えています。

若者に伝えたい。うきはの魅力は「水と緑、そして穏やかな民土」にあり、そして今、衰退する「農業・林業」にこそチャンスがあると…。